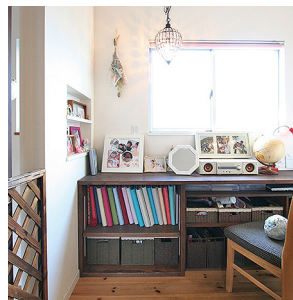
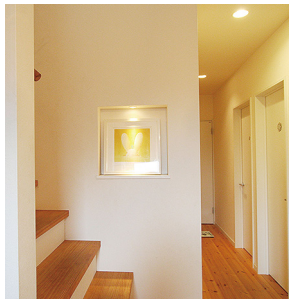


「これ以上のものができるか不安」と言うほど、  
愛着いっぱいの暮らしを送っています。



# Come Home Story

ご入居後の  
お宅訪問  
No.043  
カムホームストーリー  
高知市・Oさま邸  
竣工:2011年12月  
設計担当:岡本理絵



## 「タイセイさんはグイグイくる感じじゃないから」

かわいい女の子二人に恵まれた明るい笑い声が絶えないOさまご一家。お姉ちゃんが市内の幼稚園に通いはじめるのを機に、念願のマイホームを建てることに。ハウスメーカーの家づくりに共感できずにいた時、友人から勧められたのがタイセイホームでした。見学会へ行く前にホームページのブログを読み尽くしたと言う奥さまは、「岡村さん(お客さまサポーター)は慎重な性格で自分たちに合ってる」と感じたと言います。「当時は他に自然素材を売りにしている会社がなかった」と、やさしい雰囲気の家に一目ぼれした奥さま。売り込みのないタイセイホームのスタイルも気に入り、その後も毎月見学会へ足を運ぶようになりました。「岡村さんが親身になって自分たちがほしい家を聞いてくれて、それに当てはまる広さと金額を出して土地の交渉もしてくれました」と、施主側の気持ちでサポートしてくれたこと、大工さんの手仕事を実感したことも決め手となり、Oさまの家づくりがはじまりました。

## 「今まで住んできた家は落ち着かなかったけど、今の家は不思議と落ち着く」

「岡本さん(設計コーディネーター)が大人カッコいい家を見てきたから」と、担当が決まり喜びも2倍だった奥さま。打合せは毎回楽しく進んでいきました。黒と白の外壁で2トーンに貼り分けた外観は、片流れのシンプルなデザイン。内装の床や家具を明るい色にして、梁は持ち込みの家具にも合うように空間が引き締まる濃いブラウンを選びました。交通量の激しい道路に面したOさまのお宅は、通行人の視線を考慮して2階にLDKを配置。リビング収納と、ゲームやDVD鑑賞が趣味の旦那さま部屋を希望した時に、岡本からロフトの提案をもらいました。収納スペースはロフトの下に5.4帖の広さが確保でき、LDKのものをなんでも収納。「リビングを広く」という希望も叶いました。建具で仕切れるロフトで趣味に没頭できる時間がうれしいと話す旦那さまです。建築中に仮でつくっていた階段を「使い勝手がいいからこのままで」と頼んでハシゴの予定を変更したことで、「お店ごっこでココがレジ代わりになってますよ(笑)」と、お子さんたちも大好きな遊び場の一つになっています。

## 「快適で気に入って過ぎて、これ以上のものができるか不安」

出し入れを考へて、扉をつくらずオープンにしたシューズクローゼット。見るところだからキレイにするという面もありますが、旦那さまは「迷って決めただけ、やっぱり見えないほうが良かったかも」と振り返ります。こだわりのベランダは、できるだけ外に出して、窓も大きくなりました。夏はプールを出して水遊びをするのがお決まりで、「大人も入ってますよ(笑)」と笑顔で旦那さまに目を向ける奥さま。遊んでいてもリビングでお茶をしながら見守ることができ、ホッとしています。「アルバムって仕舞いがちだけど、振り返ることが大事なんです」と、自宅でアルバムづくりの教室を開いている奥さま。子どもたちの手が届くリビングカウンターに専用の収納をつくりました。そこから小さな手で一冊のアルバムをとり出し、「これは遊びに行った時の!これはお誕生日会!」と楽しそうなお子さまたち。家を建てたことで人が集まり、楽しいイベント事も増えました。数年後の立ち退きで2回目の家づくりを控えるOさまご夫妻は「これ以上のものができるか不安」と言うほど、愛着いっぱいの暮らしを送っています。